

ギリシアの初期鉄器時代に関する調査および研究動向

二〇一〇～二〇一四年

高橋 裕子

はじめに

本稿は二〇一〇年に発表したギリシアの初期鉄器時代に関する資料および研究動向の続編である¹⁾。前稿において記載しえなかつた文献をも含めて、二〇一〇～二〇一四年にかけて公にされた初期鉄器時代に関する業績を中心に紹介していく。ただし紙幅の都合上取り上げることができなかった業績も多く、それらに関しては他日を期すこととしたい。

本邦における初期鉄器時代研究は前稿執筆時と大差はなく、私見ではあるが「未だ揺籃期にも達していない」と

いう状態に変わりはない²⁾。本稿において当該期の研究および調査動向を紹介することにより、我が国におけるこの時代に関する研究の促進にささやかながらも寄与することを旨指したい。

以下、「1 総説」において研究業績や論文集など当該期に関する重要文献に関して、そして「2 遺跡と資料」において各遺跡の調査および資料報告について記していく。

1 総説

初期鉄器時代のギリシア世界を理解するに際して、青銅

ギリシアの初期鉄器時代に関する調査および研究動向 二〇一〇―二〇一四年（高橋）

器時代終末期から鉄器時代への移行期に社会がどのように変化したかを把握することが重要であるということに関しては、言を俟たない。そこで本節においては、鉄器時代への移行期と初期鉄器時代の二つの項目に分けて記していきたい。

(1) 青銅器時代終末期および鉄器時代への移行期

まず概説としては、青銅器時代に関する初学者向けの著作の中に、青銅器時代終末期および鉄器時代への移行期に関する章がさかれているものがある (Dickinson 2010, Jung 2010)。近年、当該期に関しては遺跡または地域ごとの研究が進展し精緻化しつつあるが、これらの概説は現時点における調査および研究成果の把握やそれらの動向に関する大きな流れをつかむことを可能としてくれよう。

また鉄器時代への移行期に焦点を当てた業績として注目されるのが、オーストリアで開催された国際的なワークショップの報告論文集である (Deger-Jalkotzy & Bächle 2009)。このワークショップは、青銅器時代の最終期つまり後期青銅器時代ⅢC期に関する各遺跡の情報および意見交換を目指して、三回にわたってウィーンで開かれた研究発表および討論会である。各回とも著名な研究者が名を連ねており、その成果は評価されてしかるべきであ

る。二〇〇一年に第一回目が (Deger-Jalkotzy & Zavadil (eds.) 2003)、そして二〇〇四年には後期青銅器時代ⅢC中期にテーマを絞った第二回目が開催された (Deger-Jalkotzy & Zavadil (eds.) 2007)。その後二〇〇七年に青銅器時代から鉄器時代への移行期に焦点を当てた第三回目すなわち最終回が行われ、その報告論文集が二〇〇九年に出版された上記の文献である。この著作にはギリシア各地の遺跡に関する論文が幾つもおさめられており、当該期に関する研究を全体的にレベルアップすることに大きく寄与したと見なしてよい。

この論文集の業績のみならず学界全体の昨今の傾向として、青銅器時代終末期から鉄器時代にかけての移行期における編年体系に関して活発な議論が展開されていることが指摘される。とりわけかつて編年区分そのものを廃止することも提案された亜ミケーネ期に関しては未だに困難な問題が多く、研究者の関心は絶えない (Ruppenstein 2003, 2009, Papadopoulos, Daniata & Marston 2011)。また同様にクレタ島の亜ミノア期にも議論があり (Hallager 2010, DiAgata 2011)、今後の研究の進展に注目していきたい。

(2) 初期鉄器時代

最初に前篇において紹介できなかった重要文献として、S・ラングドンの“*Art and Identity in Dark Age Greece, 1100-700 B.C.E.*” (Langdon 2008) について記しておく³⁾。これは初期鉄器時代における土器の図像学的研究において、従来の伝統を打ち破る新しい視座を提供した画期的な著作である。ラングドンの主張の根幹には、幾何学文様期の土器の図柄には明確な社会的メッセージが込められており、それを伝えるためにテーマが選択されて描かれたという独自の見解がある。かかる前提の上に、土器をはじめめとする幾何学文様期の作品を理解するためには、誰が何のために注文し、そしてそれが何のために制作され使用されたのかということを考察する必要があると強調する。またそのような図柄が描かれた土器を多数の人たちが見る機会が誕生や成人、結婚や死など通過儀礼と称すべき儀式であったと推察されることから、人生の節目に行われるような儀式において土器などの作品が示すメッセージがまず家の中で確認され、さらにはそれが社会全体の規範となり公的意味を帯びるようになったという意見を展開する。

幾つか具体例を記そう。大英博物館が所蔵する幾何学文様期の土器に、大型船のかたわらで男性が女性を誘拐しようとしている図柄が描かれているものがある(図1)。従

来これは神話の一場面かまたは実際に起こった出来事かと推測されており、長年にわたってそのどちらであるかが議論されてきた。しかしラングドンは全く異なる解釈を提示する。氏によれば男性が女性を力で支配し連れ去るという誘拐の図柄は結婚を象徴的に示唆するものであり、この土器は婚礼にかかわるものであったという。

またティリンス(地図①)出土の土製の盾(図2)についても、新しい解釈を提案している。この遺物の表面には、剣を片手にアマゾンと戦う男性が描かれている。男性は左手でアマゾンのヘルメットをつかみ、そして右手に持つ剣をかまえて反撃ないしは抵抗する姿勢を示しており、緊迫した状況であることが見て取れる。この図像に関してラングドンは、アマゾンという女性の怪物を倒すことは少年が大人へと成長するための通過儀礼において重要な意味を有していた、すなわち怪物を倒した英雄として成人男性社会の仲間入りを果たすことを象徴していたと指摘する。

このような議論をとおして、ラングドンは以下のような結論を導き出す。ポリス成立期に社会が変化するに伴いエリート階層においては婚姻が社会的重要性を帯びるようになった、それと同時にジェンダーによる差異や区分も確立していった、すなわちそれは男性の優位や支配を意味し、

そして土器などの図柄はかかる社会構造に根差した理念やイデオロギーを明確化さらには正当化するものであった。幾何学文様期の図像表現は、成人していく過程において身につけるべきそれぞれのジェンダーにふさわしい役割や特性、つまり男性には英雄的な行動規範や倫理観、そして女性に対しては結婚の重要性を示すものであった。

このラングドンの著作は、幾何学文様期の図像分析に関して従来とは異なる視座を提供したという意味において、新しい時代を切り開いた業績と言える。幅広い知識に裏打ちされた氏の分析には整合性が認められ、議論の上で破綻している要素は見当たらないと言つてよい。ただし状況証拠のみを幾つも積み重ねるような論法であり、氏の見解を証明するための決定的な材料が存在しないことが弱点であろう。したがってその結論にはおそらく慎重な姿勢で応じることが求められるが、しかしこのような斬新な意見を発表したという事実そのものは十分に賞賛にあたいする。さらに、具体的な社会像が把握しにくい初期鉄器時代に関し、当時の人たちの人生や生活を具体的にイメージすることの重要性を示した功績は大きい。この著作は、今後の初期鉄器時代研究において、重要な位置を占めることになるであろう。

ところで、近年この時代に関しては献呈論文集やシン

ポジウムなどの報告論文集が相次いで出版されている。それらに所収されている個々の論文は特定の遺跡を扱っているものが多く、またたいいていの場合には厳しい紙幅の制限がある中で執筆されたものと思われるが、論文集全体を通して見てみると学界全体の動向が浮かび上がってくるとも言える。

かかる論文集の中でまず取り上げるべきは、二〇〇一年に他界したW・D・E・クルソンへの献呈論文集“*The “Dark Ages” Revisited*” (Mazarakis Ainiian (ed.) 2011) である。クルソンは在アテネアメリカ古典学研究所の所長を長らくつとめ、また初期鉄器時代に関する業績としてはメッセニアやクレタの調査や研究で知られる著名な考古学者である。おそらくクルソンの小著 (Coulson 1990) にちなんでタイトルがつけられたと思われるこの論文集には、六〇を超える初期鉄器時代に関する論文がおさめられている。そしてそれらを読んでいくと、いかに多くの調査やプロジェクトがギリシア各地で進行中であるか、またはその報告が待たれる状況であるかを如実に見て取ることができる。一昔前のアテネ中心部とアルゴリス、そしてエウボイア島のレフカンディ (図4⑤) ばかりが注目された時代とは隔世の感がある。当該期に関する現今の調査および資料動向を把握するには必須の文献である。

同様に有益な業績が、幾何学文様期の編年体系の基礎を築いたJ・N・コールドストリームにささげられた論文集“*Cyprus and the Aegean in the Early Iron Age: The Legacy of Nicolas Coldstream*” (Iacovou (ed.) 2012) である。ギリシアに関する論考もあるが、タイトルから察せられるようにキプロスに焦点を当てたものが多い。現在ではギリシアの初期鉄器時代に関心を抱く者は、同時代のキプロスに関しても目配りをしていくことは当然のこととして求められていると言っても過言ではない。東地中海世界の中のギリシアという視座から初期鉄器時代を考えるに際して、この著作の重要性は大きいであろう。

また“*Early Iron Age Pottery: A Quantitative Approach*” (Verdan, Theuillat & Pfyffer (eds.) 2011) という初期鉄器時代の土器に関する数量分析をテーマに掲げた業績も出版された。二〇〇八年一月にギリシアにあるスイスの研究所で開催された討論会 (Round Table) をもとに出版された著作である。扱われている遺跡や地域はこの時代の研究においては著名なところばかりであるが、土器の数量分析というテーマから推察されるように他の論文集にはうかがえない傾向の業績が多い。

2 遺跡と資料

本項では、地域および遺跡ごとに調査や資料の報告などについて簡潔に紹介していく。ただし近年この時代に関する文献は夥しい数にのぼっており、そのすべてを取り上げることが不可能である。そこで、筆者がとりわけ重要であると思われる地域に関して焦点を絞りたい。以下、アテネおよびアッティカ、中部ギリシア、サロン湾、キュクラデス諸島、クレタ島、東方諸地域、アルバニアの順に記していく。これらの地域以外の、または本文中において扱うことができなかった文献は表にまとめてあるので、それを参照されたい。

アテネおよびアッティカ

初期鉄器時代に関する調査および研究において一九世紀以来絶えず中心的な立場にあるアテネおよびアッティカに関しては、緊急発掘の調査報告も含めて、未だに資料が増加している (たゞねび Kakavogianni et al. 2009, Petrou et al. 2009, Papaphloratou 2010, Galanakis 2011, Skliardi 2011)。その中でもとりわけ注目されるのが、かねてより資料の存在が知られているながら詳細が不明であったプラトンのアカデメイア (Mazarakis Anian & Livieratou 2010, Mazarakis Anian & Alexndridou

2011) ヴェラトーン（地図④、Mazarakis Amian 2011, Vlachou 2011）に関する業績が発表されたことであろう。両者ともにこの時代のアッティカにおいて重要な存在であるが、とりわけのちにプラトンの学園が建設されたことで知られるアカデメイアと通称される遺跡からは「聖なる家」と称される遺構が出土しており、アカデモス信仰との関連など議論の的となってきた。アカデメイアからは墓も出土しているためその資料も含めて「聖なる家」の性格を検討する必要があり、より一層の研究の進展を期待したい。

さらに特筆にあたいするのが、エレウシス（地図②）における宗教の連続性に関する M・B・コスモプーロスの論文である（Cosmopoulos 2014、さらに cf. Cosmopoulos & Rusillo 2014）。エレウシスは初期鉄器時代におけるアッティカ有数の集落であることから、アテネ中心部との関係を含めてさまざまな課題が議論されてきた。その中でミケーネ時代の宗教と初期鉄器時代以降のそれとの関係性または連続性も重要な問題の一つであり、かねてより多くの研究者が意見を発表している。このように議論がまびすしい課題に対してコスモプーロスは未発表資料の分析をも含めた慎重な検討を加えることにより、研究史上においてその重要性から言えばおそらく筆頭に言及されるべき良質な業績を発表した。

ミケーネ時代から初期鉄器時代にかけての宗教の連続性はギリシア全域の聖域や神殿に関して分析や検討が行われている大きなテーマであるが、とりわけエレウシスのデメテルの聖域が注目を集めてきた理由は、後代のテレステリオンの下からメガロン B という建造物が発掘されたことにある（図 3）。テレステリオンとは宗教儀式に使用される神聖な建物であり、エレウシスの神域における中核的な存在の建造物である。一方その下から発見されたメガロン B はミケーネ時代の建物であり、それが宗教関連の施設であったか否か、もしも宗教関連の施設であるならばデメテル信仰およびその祭儀がミケーネ時代にまでさかのぼる可能性があるかといった点が議論の対象とされてきた。ただしメガロン B に関する詳細な資料が未発表であったことも手伝って、関心の大きさに反して、十分な研究の進展が見られなかった。そのような状況をようやく打破したのが、このコスモプーロスの論文である。氏の結論によれば、メガロン B は宗教関連の施設ではあったが、その信仰の性格は大きく異なり、のちのデメテル信仰との連続性を認めることには難があるという。

宗教や聖域のみならずすべての要素に関して同様に言えることであるが、ミケーネ時代または後期青銅器時代から初期鉄器時代への移行に関する研究は、かつてのような

連続性または非連続性といった二者択一的な視点からの分析ではなく、個々の遺跡や遺構を詳細に検討し、具体的な変化の様子を明らかにすることが現在では求められている³³⁾。このコスモプーロスの論文はその好例であろう。

中央ギリシア東部地域

中央ギリシアの東部一帯地域に関しては、顕著な特徴が確認されている。それはカラポデイ(図4②)、Kaiser, Rizzotto & Strack 2011, Strack 2011) やエラティア(図4①、Deger-Jalkotzy 2009) などの資料にうかがわれるように、青銅器時代終末期から鉄器時代への移行期に関する研究において重要な遺跡が多いことである(Lis 2009)。そして同様の傾向を持つ遺跡として近年新たに注目を集めているのが、東ロクリスのミトゥルウである(図4③)。北エウボイア湾の本土側に接するように浮かぶ小島であり、現在の大きさはわずかに三三〇(南北)×一八〇(東西)メートル、また最も高い場所でも海拔一二メートルに過ぎない。ただし後期青銅器時代においては今よりも海面が低かったと推測されることから、現在に比べれば島の面積は大きかった。

ミトゥルウではその全域において遺物が確認されており、島全体が遺跡と言ってよい。ここでは一九八〇年代

にアメリカの調査隊が表面踏査を、そして二〇〇四、二〇〇八年にかけてはアメリカとギリシアの合同チームが発掘調査を行った。その結果、この島は新石器時代以来の長い歴史を有する重要な遺跡であることが明らかとなった。さらに青銅器時代に関しては初期、中期、後期と通時的に使用されていたことが認められている。

本稿の関心において重要なことは、ミトゥルウにおけるミケーネ文化崩壊後の後期青銅器時代ⅢC期から鉄器時代初期である原幾何学文様期にかけての資料である。途切れることなく人的活動の痕跡が残されていることから、最終報告が発表されればおそらく土器の編年研究などに有益な資料となるであろう。また原幾何学文様期に入ってから新しい建物が建立されたり、それ以前の建造物の内部に墓が造られたりするなど、社会が変化したことがうかがわれる。さらには、原幾何学文様期の後期に関してはほね貝(Murex)を使って紫色の染料が製造されていた痕跡が発見されており、当時の人たちの生活実態を示す稀有な事例として注目されよう。このミトゥルウの調査成果の詳細が明らかにされた暁には、青銅器時代終末期から初期鉄器時代前半期における社会変化の実態をつぶさに観察できる貴重なデータになると期待される(Van de Moortel 2007, 2009, Van de Moortel & Zahou 2005,

ギリシアの初期鉄器時代に関する調査および研究動向 二〇一〇～二〇一四年（高橋）

2011, 2012, Kramer-Hajos & O'Neill 2008, Tsokas et al. 2012, Karanas & Van de Moortel 2014)。

さらにこの一帯に関しては、『イリアス』（第二巻五三二～五三三）にも言及があるキュノス（図4④）に関する業績も発表されている（Dakoronia 2003, 2007, Dakoronia & Kounouklas 2009）。

これらの遺跡の資料を検討した上でこの地域全体の特徴について論じていくことが肝要であると思われるが、とりわけ、なぜこの一帯からは青銅器時代終末期から初期鉄器時代にかけて中断されることなく使用されている遺跡が多いのか、その背景を探求していくことが求められよう。

サロン湾

サロン湾は初期鉄器時代研究において、近年とみに注目されるようになった地域である。その要因の一つはアイギナ（地図⑥）に関する報告書が出版されたことにあるが（Jarosch-Reinholdt 2009）、そのみならず、カラウレイア（地図⑤）における調査でこの時代の資料が出土していることが大きな理由である。

アンフィクテリオニアの存在やデモステネスの終焉の地として知られるカラウレイアには著名なポセイドンの聖域があり、既に一九世紀にスウェーデンの研究者により発

掘調査が手がけられていた。それから一世紀ほど経過した一九九七年に、やはりスウェーデンの調査隊により本格的な調査が再開された。翌一九九八年、ポロスで開催された国際的なシンポジウムにおいてスウェーデンを代表するギリシア考古者であるR・ヘイグが青銅器時代のカラウレイアについて（Hägg 2003）、また当時在アテネスウェーデン研究所長の座にあったB・ウェルズがポセイドンの聖域における新しい調査に関して発表を行うと（Wells 2003）、その成果に大きな期待が寄せられるようになる。それに応えるかのように二一世紀に入ってからほぼ毎年おきに報告論文が出されており（Wells, Penttinen, Hjothman & Savini 2005, Wells, Penttinen & Hjothman 2006-2007, Penttinen & Wells 2009, Alexandridou 2013）、とりわけ二〇〇七年の調査では後期青銅器時代のレシエフ像がヘレニズム時代のコンテクストから出土したことで注目された（Wells 2009）。

初期鉄器時代に焦点を当てた文献としては、先に記したクルソンへの献呈論文集にウェルズが当該期の資料を簡潔にまとめた業績を発表している（Wells 2011）。初期鉄器時代における聖域の発達、青銅器時代との連続性に関する問題、アテネやアルゴリスとの対外関係など、カラウレイアの聖域の資料はさまざまな課題を提供している。今後

の調査および研究の進展を見守っていききたい。

キュクラデス諸島

キュクラデス諸島においてはかねてより調査および研究が盛んであるが、その傾向は近年においても衰えを知らず、幾つもの島々について報告および研究論文が発表されている。たとえばアンドロス島 (McLaughlin 2011)、テノス島 (Kourou 2008b, 2011, Gros 2011) やナクソス島 (Charalambidou 2008-2009, Zaphreopoulou 2011, Reber 2011)、デロス島 (Earle 2010) などに関する業績が言及されよう(地図参照)。

ところで、前篇においても若干の言及をし、また初期鉄器時代よりも前古典期が主要年代ではあるが、神殿から豪華な遺物が出土したキュトノスに関してあらためて記しておきたい。ケア島の南に浮かぶキュトノスは(地図参照)、テッサリア大学のA・マザラキス・アイニアンの調査により一躍脚光を浴びるようになった島である。マザラキス・アイニアンのチームは一九九〇年代より表面踏査を開始し、島の西岸中央部に位置する古代の都市キュトノスにおいて幾つかの聖域を確認した。そしてそのうちの一つの神殿において二〇〇二年から発掘調査を開始し、前古典期を中心とする豪華な奉納品が多数出土するという目覚ま

しい成果をあげた。金や銀、象牙製品や他地域からの搬入品など贅沢な品が豊富に発見されたことにより、今やこの島は前古典期における聖域研究において、ギリシア全域を視野に入れても、第一級の資料を提供する存在と目されるようになった。さらにまた本稿の対象である初期鉄器時代に関する資料も出土していることから、この時代におけるキュトノスの具体像が解明されることも期待されよう (Mazarakis Ainiian 2005, 2009, 2010, Mazarakis Ainiian & Mitsopoulou 2007, cf. Mitsopoulou 2010)。

そしておそらくこのキュトノスにおける群を抜いた発掘成果と関連があると推察されるが、キュクラデス諸島における前古典期の聖域に関してマザラキス・アイニアンを中心とするプロジェクトが企画された (Mazarakis Ainiian 2013)。それにより幾何学文様期から前古典期にかけてのキュクラデスの聖域に関しては近年かつてないほどの関心が喚起されていると言える。

このように前古典期に関する研究が進展しつつあることは、当然のことながら初期鉄器時代に関するそれにも大きな影響をもたらすことは必至である。今後の調査や研究成果を括目して待ちたい。

ギリシアの初期鉄器時代に関する調査および研究動向 二〇一〇～二〇一四年（高橋）

クレタ島

初期鉄器時代研究において最重要地域の一つであるクレタ島に関しては、表に記載してある通り、幾つもの業績が発表されているが、何よりも“*Kreta in der Geometrischen und Archaischen Zeit*” (Niemeier, Pitz & Kaiser (eds.) 2013) が出版されたことが注目される。ドイツの考古学研究所が二〇〇六年に開催した国際的なコロキアムの報告論文集であり、クレタの調査や研究に携わっている著名な研究者が顔をそろえている。近年とみに関心が高まりつつあるクレタの前古典期に関する業績が目立つが、たとえばエレウテルナの報告書（地図⑦）、Kotsomas 2008）で知られるA・コツオナスの原幾何学文様期B（東方化様式の土器に焦点を当てた論文のように（Kotsomas 2013））、初期鉄器時代に関連がある論考も幾つもおさめられている。

さらに特筆にあたいするのは、クレタの専門家であるS・ウオラスの顕著な活躍である（Wallace 2010a, 2011）。とりわけ氏の研究の集大成とも見なしえる“*Ancient Crete: From Successful Collapse to Democracy's Alternatives, Twelfth to Fifth Centuries BC*” (Wallace 2010b) は当該期に関心を抱く者にとっては必読の書であろう。該博な知識をうかがわせる労作であり、初期鉄器時

代から前古典期にかけての大きな時代の流れをつかむに際して有益な著作である。ただし、不注意なミスをも含めて細部に関しては慎重さに欠ける傾向が散見されるため、参照する際には注意が必要である。

東方諸地域

初期鉄器時代のギリシア世界におけるキプロスやフェニキア人との関係の重要性は、現在では広く認められている。そして研究史上かかるテーマにいち早く着目した考古学者の一人が、J・N・コールドストリームである。氏は終生変わることなくこの主題に関心を抱き続け、晩年に至ってもフェニキア人に関する論考を発表していた（Coldstream 2011）。

このような事実を鑑みれば至極当然とも言えるが、先に記したコールドストリームへの献呈論文集（Iacovou (ed.) 2012）にはキプロスやフェニキア人に関する論文が幾つもおさめられており、東方世界から初期鉄器時代のギリシアにもたらされた影響や東地中海方面とギリシアとの関係についてあらためて考えさせられる契機となった。一例のみ言及しておく。N・クルーの論文（Kourou 2012）はキプロスおよびフェニキア人とギリシア世界との関係を示す資料を手際よくまとめであり有益である。さ

らにクルルーには他の業績もあり、同種のテーマに関する研究をレベルアップさせたと見なしてよい (Kounou 2008a, 2009)。

またロドスとコスにおけるフェニキア人との関係を探求する論文も発表された (Boutogiannis 2013)。一九六九年にコールドストリームがロドスにおけるフェニキア人の居住の可能性を指摘した論文を発表して以来 (Goldstream 1969)、この一帯はクレタと並んでギリシアにおけるフェニキア人に関する議論の中でも重要な位置を占めている。現今の資料および研究レベルでこれらの島々のフェニキア関連資料を見直す論文が出されたことは喜ばしい。

一方小アジアに関しては、何よりもエフェソスが注目されよう。エフェソスに関してはシンポジウムにおける報告などで近年その資料の存在が広く知られているが（たとえば、Kerschner 2011）、報告書が出版されたことにより詳細な検討が可能となる（Kerschner, Kowalleck & Steskal 2008）。またトロイ (Aslan, Kealhofer & Grave) やコロフォンに関する業績も出され (Marianud 2011)、この周辺地域一帯の時代像の解明が期待される。

アルバニア

ギリシア以外の地域で近年より一層注目されるようになった場所が、アルバニアである。アルバニアのアドリア海に面した海岸地域一帯にはアポロニアやエピダムノスなどギリシアの著名な植民市が存在しており、前古典期における植民活動に関して重要な地域であることは周知の事実である。たとえば二〇〇三年にはエピダムノス周辺地域における表面踏査の報告が『ヘスペリア』に報告されており (Davis et al. 2003)、この地域に対する関心はかねてより高かったと言えるであろう。ただし、アテネのアゴラやカルキダイケのトロネの調査を手がけ、現在初期鉄器時代に関して最も活躍している研究者の一人と目される J・K・パドプロスが二〇〇四年以降アルバニアの内陸部において発掘調査を展開したことにより、従来とは異なる新たな関心呼び起された。

パドプロスが発掘した遺跡は、アルバニアの中央から見て南西方向に位置するロフケンドである。北東部がやや狭まった楕円の形をしているなだらかなマウンド状の遺跡であるが、長年にわたる居住の痕跡が層状に堆積した中近東のテルとは異なり、ロフケンドは多数の墓が出土している塚 (トウムルス) である。大きさは二〇・五四×一〇・五四メートルで比較的小ぶりと報告されているが、

それでも合計で一〇〇基以上の墓が出土している。しかも一つの墓に二～三名の遺体が葬られる複数葬の遺構が多数あるため、発見された遺体は一五〇人を超えるという。埋葬方法は幾つかの例外をのぞいて土葬であり、また時代に関して言えば、後期青銅器時代のものも含まれているが、大半が初期鉄器時代に属する。(Papadopoulos 2006, Papadopoulos, Bejko & Morris 2007, Papadopoulos, Bejko & Morris 2008)。

ロフケンドの遺物の中にはギリシア世界との関連性や類似性をうかがわせるものが出土しており(Papadopoulos 2010a)、ギリシアを専門とする立場から言えば、北方地域との関係の重要性をあらためて認識させられる成果が提出されたと思われよう。

とりわけ二〇一〇年に『ヘスペリア』に報告されたフィブラは、わずかに二例ではあるが、注目にあたいる(図5)。針を留める部分が特殊な形をしたアーチ状のフィブラであり、従来知られていなかった新しいタイプである。パドプロスはこれを「ロフケンドタイプ」と命名し、他遺跡から出土した同様の遺物もあわせて報告した。それによると北西ギリシアのリアトヴニからも「ロフケンドタイプ」が発掘されていた。ただしリアトヴニの場合は針を留める部分だけの断片的な遺物であり、さらにはあまりにも

特異な形状であるために、従来はそれがフィブラであると認識されていなかったという。このように全体的な形や用途が不明であったギリシアの遺物がロフケンドの調査により明らかになったという事実は、とりわけ北西地域に関しては、ギリシアの初期鉄器時代を論じるに際してアルバニアの資料にも意識を向けることの必要性を物語っている(Papadopoulos 2010b)。

ロフケンドの調査はバルカン半島の一面にあるギリシアという視点から初期鉄器時代を分析することの重要性を提供することになった。DNA分析も含めてその成果はギリシアを専門とする研究者にとっても有益な業績になると期待されており、詳細が発表されることを心待ちにしたい。また近年北西ギリシアの初期鉄器時代に関する報告が徐々に増加しつつあることを考えると(たとえば、Vasiljević 2011)、ギリシアとアルバニアとの関係を探求する同様の方向性を持つ調査や研究が今後さらに進展することが期待されよう。

おわりに

献呈論文集が出版されたことに言及したW・D・E・クルソンやJ・N・コールドストリーム、さらにはアシネを

はじめとするアルゴリスの諸遺跡やカラウレイアを発掘したB・ウエルズなど、この時代の調査や研究を手がけてきた著名な研究者が二一世紀に入ってから相次いで鬼籍に入られた。必然的に、初期鉄器時代研究における世代交代の波が大きくなうねりとなって押し寄せつつあることを感じざるを得ない。

また近年あまりにも遺跡および資料数が増加したために、総合的な時代像を描くことがますます困難になりつつある。近年盛んにシンポジウムやワークショップが開催される背景には、情報や意見を交換することにより、多少なりともそのような現状を打破しようという危機感があるのではないかと推察されよう。

上記のようなことから、昨今の初期鉄器時代研究はどうか大きな方向性をとらえようと暗中模索をしているような印象を受ける。これからそれがどのように変化していくのか、今のところは予測が難しい。

ところで初期鉄器時代に関する研究ではないが、ギリシア考古学においてもようやくDNA分析が導入されるようになってきた (Bowman et al. 2009)。この時代に関しても、いずれはかかる分析方法が従来とは異なる新たな成果をもたらすことを期待したい。

補記

初期鉄器時代研究が今後我が国において発展していくために、急務の課題であると筆者が感じていることが二つある。

一つは資料に関する基礎的な知識を十分に身につけることとであり、とりわけ土器についてのそれが求められる。その理由は、文字史料がほとんど存在しないこの時代に関しては、遺構や遺物など資料の年代を判断するに際して何よりも有益な手がかりを与えてくれるものが土器であるからである。邦語の文献では、概説書に紹介されている土器の写真のキャプションなども含めて、誤った年代が記されているものが存在する。その中には、必要最低限の基礎知識さえ疑われる事例さえ含まれている。

そしてもう一つは、資料や研究状況を総合的かつ網羅的に把握するということである。ただし、現在の我が国の研究状況では、初期鉄器時代に関する文献を掌握することは極めて困難であることもまた事実である。ギリシアの考古学的調査に関する年報としておそらく我が国において最も知られているのは、British School at Athens が発行する *Archaeological Reports* であろうが、これはすべての時代を扱うものであり、初期鉄器時代に関してはあまりにも不

十分である。

またギリシアの考古局の調査に関しては、かつては *Αρχαιολογικόν Δελτίον*（以下、ADと略）という雑誌に年報が掲載されていたが長らく休刊となっており、その概要さえ把握できない状況にあった。ようやく二〇一二年に、二〇〇〇～二〇一〇年の発掘に関してはインターネット上に電子書籍とも言える “2000-2010. Από το ανακατακτό έργο των Εφορειών Αρχαιοτήτων” (Μαρία Ανδρεάδου-Βαδούκη ed., Athens, 2012) が発表された。管轄ごとに分割されたファイルが何十も列挙されており、総頁数は四〇〇を超える報告である (<http://www.yppo.gr/0/anaskates/index2.html>, 二〇一六年一月二四日接続確認)。しかし、かつてのADを見てみると一年分の報告にもかかわらずより大部なものが存在し、たとえば一九九七年に出版された一九九二年の年報である第四七巻 (AD 47, Β.2, Χρονικά 1992, 1997) は七〇〇頁を超えていることを考えるならば、一年分の調査で四〇〇頁強という分量は扱われている調査ないしは資料が相当に限定されていることをうかがわせており、いささか物足りないとも言える。

それではこのような状況をどのように補っていけばいいかということが問題となるが、欧米の研究者の場合には、

未発表資料も含めて、個人的なつながりによって情報を得ている（または交換している）例が多いであろう。論文などに情報源として「発掘をしている○○氏のご教示による」といった記載がなされる所以である。

一方我が国においては公にされている業績を把握することさえ困難であり、筆者の場合には、会員となっているギリシアの研究会のニューズレターや個人的に情報を提供してくれる知人などにその多くを負っている。また、どのような文献が公にされているかということがわかって、それを入手することにさらに多くの苦勞を要することが常である。ギリシアで出版される文献に関してはことさらに困難が大きく、扱っている書店が見つからなかったり、欧米の図書館でも所蔵が限られているものが多いが、そのようなものは個人的なつてを頼ってしばしばPDFや著作そのものを送っていただいたりしている。また雑誌を刊行している機関に直接問い合わせ、抜き刷りを恵与していただいたこともある。

おそらく日本国内でまずできることは、述べるまでもないが、インターネットで入手を試みることであり、周知のとおり academia.edu で検索することはその筆頭にあげられよう。さらには、各国の研究機関や調査組織のウェブサイトをも有益である。たとえばスウェーデンの著名な学術雜

誌である *Opuscula* (Annual of the Swedish Institutes at Athens and Rome) のバックナンバーに関しては、無料でダウンロードできる論文もある (<http://eosi.bokorder.se>, 二〇一六年一月一日接続確認)。

また本稿の「サロン湾」の項目で取り上げたカラウレリアに関しては、調査組織のウェブサイトにて関連文献が公表されている (<http://www.kalauraia.org/en/biblio>, 二〇一六年一月二四日接続確認)。おそらく今後はこのような傾向が徐々に広がっていくと思われる、遺跡やプロジェクトの名称で検索してみるといいであろう。

ほかに有益な情報を提供してくれるものとして想起されるのが、書評サイトである。初期鉄器時代の著作が取り上げられる可能性がある信頼に足るオンラインの書評としては、*American Journal of Archaeology* の AJA Open Access: Book Reviews (<http://www.ajonline.org/bookreviews>, 二〇一六年一月二四日接続確認) や *Bryn Mawr Classical Review* (<http://bmc.brynmawr.edu>, 二〇一六年一月二四日接続確認) がある。後者に関して一例をあげるならば、「クレタ島」の項で言及した S. ウォラスの “Ancient Crete: From Successful Collapse to Democracy’s Alternatives, Twelfth to Fifth Centuries BC” (Wallace 2010b) に関しては、やはりその業績を紹介

介したA・コツオナスが評を担当している。初期鉄器時代でもクレタをフィールドとする研究者という極めて専門性の高い立場からのコツオナスの意見や指摘は参考になる (<http://bmc.brynmawr.edu/2011/2011-04-52.html>, 二〇一六年一月二四日接続確認)。これらの書評関連サイトを時折チェックし、当該期に関する新しい業績が書評対象とされていないか確認するといいであろう。

新刊などの情報という点に関して言えば出版社のサイトも有益であり、ここではシケーネの発掘報告のシリーズ (*Well Built Mycenaean*) を出版していることでも知られる *Oxbow Books* について言及しておきたい。筆者は郵送されてくるカタログを見ることが多いが、ウェブサイトもある (<http://www.oxbowbooks.com>, 二〇一六年一月二四日接続確認)。British School at Athens と American School of Classical Studies at Athens とつたギリシア考古学において中核的な役割を果たしてきた研究機関の報告書なども扱われている。

本邦において初期鉄器時代の研究を手掛けるには未だ多くの困難が存在するが、それらを克服し、今後は当該期における研究が我が国においても発展していくことを期待したい。

鉄器時代への移行期または初期鉄器時代に関する文献
(本文で言及した地域や遺跡は除く)

南エウボイア湾周辺

遺跡またはテーマ	文 献
エウボイア及びオロボス	Charalambidou 2011
レフカンディ	Davidson et al. 2010, Mitchell & Lemos 2011, Lemos with Mitchell 2011, Lemos 2012
エレクトリア	Psalti 2011, Pfyffer & Verdan 2011
アマリュントス	Blandin 2011
エウボイアの対外関係	Reber 2011, Mazarakis Ainian 2012

ペロポネソス半島

地域または遺跡	文 献
イストミア	Morgan 2011a
アルゴリス	Lantzas 2012
アルゴス	Pappi & Triantaphyllou 2011
アカイア／ヘリケ	Kolia & Gadolou 2011, Kolia 2011, Gadolou 2011
エリス	Eder 2001
オリンピア	Eder 2011

上記以外のギリシア本土

地域または遺跡	文 献
北ギリシア	Gimatzidis 2012
カルキディケー／トロネ	Papadopoulos 2013
マケドニア／アルモビア	Chrysostomou 2011
テッサリア	Georganas 2009, 2011
テッサリア／ピルソス	Efstathiou-Batziou 2011
テッサリア／ハロス	Stissi 2011
テッサリア／ヴロカリヴァ	Malakasioti & Tsiouka 2011
デルフォイ	Luce 2011
テルモス	Papapostolou 2011, 2012

クレタ島

遺跡またはテーマ	文 献
ラトー	Gaignerot-Driessen 2012
カヴーシ	Mook 2011, Day 2011b
カルフィ	Day 2009, 2011a, Wallace with Mylona 2012
クノッソス	Boileau & Whitley 2010
エルテュナ	Rethemiotakis & Egglezou 2010
ゴルチュン	Santaniello 2011a, 2011b
エレウテルナ	Stampolidis 2011, Tsatsaki 2013
スロノス・ケファラ (シュブリタ)	D'Agata & Boileau 2009, D'Agata, Boileau & De Angelis 2012
土器	D'Agata 2011
宗教・信仰	Klein & Glowacki 2009, Prent 2009

クレタ以外の島々

島または遺跡	文 献
キオス／カト・ファナ	Beaumont 2011
ロドス／アギア・アガシ	Zerbaki 2011
イオニア諸島	Deoudi 2008
イタカ	2011b



本稿関連の主要な地名または遺跡地図

- (①ティリンス、②エレウシス、③アテネ、④マラトン、⑤カラウレイア、
⑥アイギナ、⑦エレウテルナ)

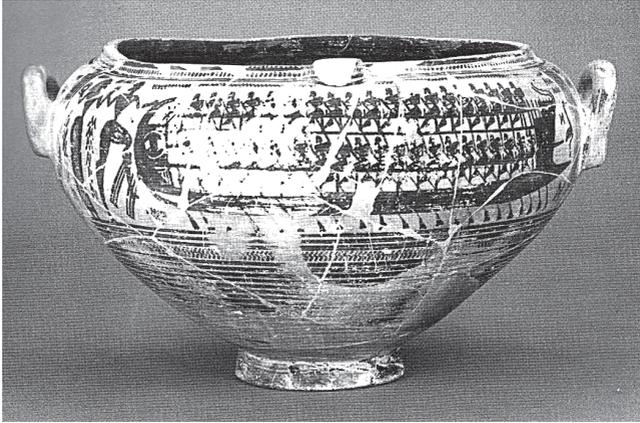


図1 誘惑の場面が描かれた大英博物館所蔵の土器

（大型船のすぐ左側に男性、そのさらに左側に女性が描かれており、誘惑の場面と見なされている。出典：Langdon 2008, 20, fig.1.1）



図2 ティリンス出土の土製の盾

（出典：Langdon 2008, 57, fig.2.1）

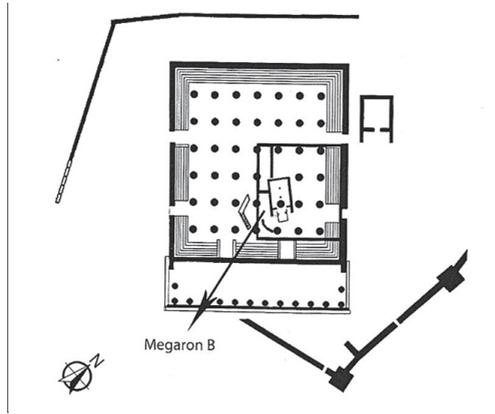


図3 エレウシスのテレステリオン平面図

(内側からメガロン B が発見された。出典：Cosmopoulos 2014, 403, fig.1)

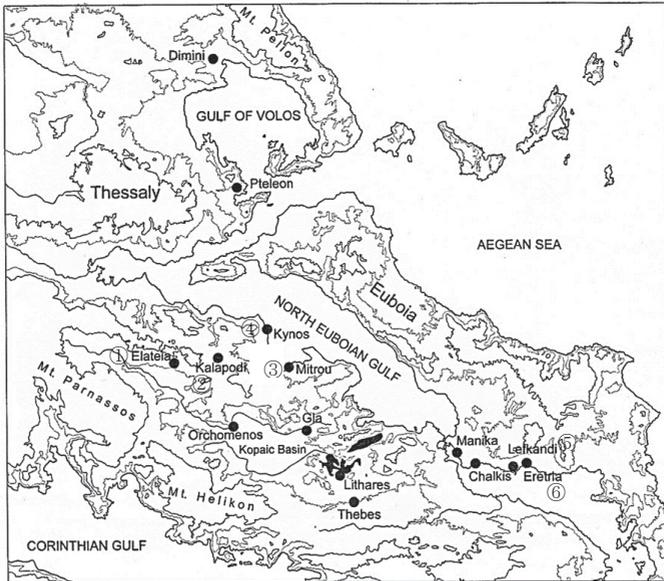


図4 中央ギリシア東部およびエウボイア島の遺跡

(①エラティア、②カラポディ、③ミトゥルウ、④キュノス、⑤レフカンディ、
⑥エレア。出典：Kramer Hajos & O'Neill 2008. 165 に加筆)

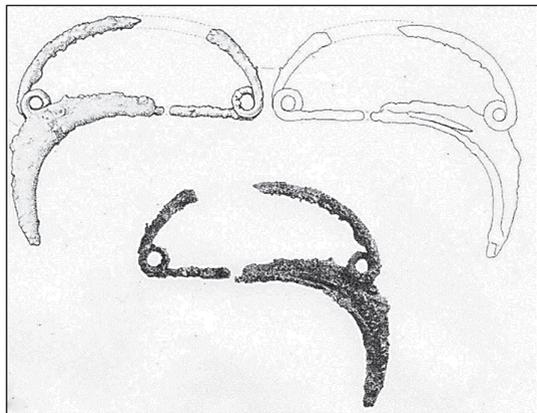


図5 ロフケンド出土のフィブラ

（出典：Papadopoulos 2010, 239）

ギリシアの初期鉄器時代に関する調査および研究動向 二〇一〇～二〇一四年（高橋）

註

- (1) 拙稿「ギリシアの初期鉄器時代に関する調査および研究動向 二〇〇〇～二〇〇九年」『地中海学研究』XXXII 二〇一〇、九一～一一二。
- (2) 拙稿、前掲文献、一〇二。
- (3) この著作に関する書評として、拙評「書評：S.Langdon, *Art and Identity in Dark Age Greece, 1100-700 B.C.E.*」『古代文化』第六四巻第四号、二〇一三、一五三～一五五。
- (4) 初期鉄器時代のエレウシスに関する邦語文献として、拙稿「ポリス成立期のエレウシスとアッティカ」『史苑』第五七巻第一号、一九九六、五〇～七一。
- (5) 拙稿「鉄の時代へーギリシアの初期鉄器時代に関する研究動向」『西洋史研究』新輯第三三三号、二〇〇四、一〇四～一〇六。
- (6) 拙稿、註一文献、九九。

【引用文献一覧】

- Aslan, C., L.Kealhofer & P.Grave 2014: The Early Iron Age at Troy Reconsidered, *OJA* 33, 275-312.
- Alexandridou, A. 2013: Archaic Pottery and Terracottas from the Sanctuary of Poseidon at Kalauraia, *Opuscula* 6, 81-150.
- Beaumont, L. 2011: Chios in the “Dark Ages”: New Evidence from Kato Phana, in Mazarakis Aiminan (ed.) 2011, 221-231.
- Blandin, B. 2011: Amarynthos au Début de l'Âge du Fer: Les Trouvailles de la Propriété M.Patavalis, in Mazarakis Aiminan (ed.) 2011, 857-872.
- Boileau, M.-C. & J.Whitley 2010: Patterns of Production and Consumption of Coarse to Semi-Fine Pottery at Early Iron Age Knossos, *JHS* 105, 225-268.
- Bouogiannis, G. 2013: Who hides behind the Pots? A Reassessment of the Phoenician Presence in Early Iron Age Cos and Rhodes, *Ancient Near Eastern Studies* 50, 139-189.
- Bouwman, A.S. et al. 2009: Kinship in Aegean Prehistory? Ancient DNA in Human Bones from Mainland Greece and Crete, *BSA* 104, 293-309.
- Charalambidou, X. 2008-2009: The Pottery from the Early Iron Age Necropolis of Tsikalario on Naxos: Preliminary Observations, *Annali di Archeologia e Storia Antica*, Nuova Serie N.15-16, 57-69.
- Charalambidou, X. 2011: Developments in Euboea and

- Oropos at the End of the “Dark Ages” (ca.700 to the Mid Seventh Century BC), in Mazarakis Aiminian (ed.) 2011, 831-855.
- Χρυσοστομου, Α. 2011: Αρχαία Αιωνία. Τα Νεκροταφεία του Τυμβώ, in Mazarakis Aiminian (ed.) 2011, 579-593.
- Clune, E.H. (ed.) 2010: *The Oxford Handbook of the Bronze Age Aegean (ca.3000-1000 BC)*, Oxford (paperback 2012).
- Coldstream, J.N. 1969: The Phoenicians of Ialysos, *Bulletin of the Institute of Classical Studies* 16, 1-8.
- Coldstream, J.N. 2011: Far-flung Phoenicians bearing Early Greek Pottery? in H. Matthäus, N.Oettinger & S.Schröder (eds.), *Der Orient und die Anfänge Europas: Kulturelle Beziehungen von der Späten Bronzezeit bis zur Frühen Eisenzeit*, Philippika, Marburger Altertumskundliche Abhandlungen 42, Wiesbaden, 177-184.
- Cosmopoulos, M.B. 2014: Cult, Continuity, and Social Memory: Mycenaean Eleusis and the Transition to the Early Iron Age, *AJA* 118, 401-427.
- Cosmopoulos, M.B. & D.Ruscillo 2014, Mycenaean Burnt Animal Sacrifice at Eleusis, *OJA* 33, 257-273.
- Coulson, W.D.E. 1990: *The Greek Dark Ages—A Review of the Evidence and Suggestions for Future Research*, Athens.
- D’Agata, A.I. 2011: Subminoan: A Neglected Phase of

the Cretan Pottery Sequence, in Gauff, Lindblom, Smith & Wright (eds.) 2011, 51-64.

- D’Agata, A.I. & M.-C.Boileau 2009: Pottery Production and Consumption in Early Iron Age Crete: The Case of Thronos Kephala (Ancient Sybrita), *SMEA* 51, 165-222.

- D’Agata, A.I., M.-C.Boileau & S.De Angelis 2012: Handmade Burnished Ware from the Island Crete: A View from the Inside, *Rivista di Scienze Preistoriche* LXII, 295-330.

- Dakoronia, F. 2003: The Transition from Late Helladic IIIc to Early Iron Age at Kynos, in Deger-Jalkotzy & Zavadil (eds.) 2003, 37-51.

- Dakoronia, F. 2007: LHIIIc Middle Pottery Repertoire of Kynos, in Deger-Jalkotzy & Zavadil (eds.) 2007, 119-127.

- Dakoronia, F. & P.Konnouklas 2009: Kynos’ Pace to the Early Iron Age, in Deger-Jalkotzy & Bächle (eds.) 2009, 61-76.

- Davidson, D.A. et al. 2010: Tell Formation Processes as Indicated from Geoarchaeological and Geochemical Investigations at Xeropolis, Euboia, Greece, *Journal of Archaeological Science* 37, 1564-1571.

- Davis, J.I. et al. 2003: The Durrës Regional Archaeological Project: Archaeological Survey in the Territory of Epidamnus / Dyrrachium in Albania, *Hesperia* 72, 41- 119.

- Day, L.P. 2009: Ritual Activity at Karphi: A Reappraisal, in *Essays on Ritual and Cult in Crete in Honor of Geraldine C.Gesell*, Hesperia Supplements 42, chap.12, 137-151.
- Day, L.P. 2011a: *The Pottery from Karphi: A Re-examination*, BSA Studies 19.
- Day, L.P. 2011b: Appropriating the Past: Early Iron Age Mortuary Practices at Kavousi, Crete, in Mazarakis Ahman (ed.) 2011, 745-757.
- Deger-Jalkotzy, S. 2009: From LHIIIC Late to the Early Iron Age: The Submycenaean Period at Elateira, in Deger-Jalkotzy & Bächle (eds.) 2009, 77-116.
- Deger-Jalkotzy, S. & A.E.Bächle (eds.) 2009: *LHIIIC Chronology and Synchronisms III: LHIIIC Late and the Transition to the Early Iron Age—Proceedings of the International Workshop held at the Austrian Academy of Sciences at Vienna, February 23rd and 24th, 2007*, Wien.
- Deger-Jalkotzy, S. & M.Zavadil (eds.) 2003: *LHIIIC Chronology and Synchronisms—Proceedings of the International Workshop held at the Austrian Academy of Sciences at Vienna, May 7th and 8th, 2001*, Wien.
- Deger-Jalkotzy, S. & M.Zavadil (eds.) 2007: *LHIIIC Chronology and Synchronisms II: LHIIIC Middle—Proceedings of the International Workshop held at the Austrian Academy of Sciences at Vienna, October 29th and 30th, 2004*, Wien.
- Deoudi, M. 2008: Die Keramik der Ionischen Inseln zwischen Stilistischer Abhängigkeit und Regionaler Selbständigkeit in der Zeit der ‚Dunklen Jahrhunderte‘, *AM* 123, 2008 (published in 2009), 151-175.
- Dickinson, O. 2010: The Collapse at the End of the Bronze Age, in Cline (ed.) 2010, chap.36, 483-490.
- Earle, J.W. 2010: Trade, Politics and Religion in the Early Iron Age Aegean: Explaining the Sacred Island of Delos, *Journal of Prehistoric Religion* 22, 39-56.
- Eder, B. 2001: *Die Submykenischen und Protogeometrischen Gräber von Elis*, Athens.
- Eder, B. 2011: The Early Iron Age Sanctuary at Olympia: Counting Sherds from the Pelopion Excavations (1987-1996), in Verdán, Theurillat & Pfyffer (eds.) 2011, 61-65.
- Efstathiou-Batzou, A. 2011: Θολωρός Τάφος Ilupáou, in Mazarakis Ahman (ed.) 2011, 595-608.
- Gadolou, A. 2011: A Late Geometric Architectural Model with Figure Decoration from Ancient Helike, Achaea, *BSA* 106, 247-273.
- Gaignerot-Driessen, F. 2012: The ‘Temple House’ at Lato Reconsidered, *OJA* 31, 59-82.
- Galanakis, Y. 2011: An Unpublished Stirrup Jar from Athens and the 1871-2 Private Excavations in the

- Outer Kerameikos, *BSA* 106, 167-200.
- Gauld, W., M.Lindblom, R.A.K.Smith & J.C.Wright (eds.) 2011, *Our Cups Are Full: Pottery and Society in the Aegean Bronze Age—Papers presented to Jeremy B. Rutter on the Occasion of his 65th Birthday*, BAR International Series 2227, Oxford.
- Georganas, I. 2009: Dying in Early Iron Age Thessaly, in A.Mazarakis-Aimian (ed.), *Acts of the 2nd Archaeological Meeting in Thessaly and Central Greece: From Prehistory to the Contemporary Period, University of Thessaly, 16-19 March 2006 (Volos)*, Volos, 195-205.
- Georganas, I. 2011: The Transition from the Late Bronze to the Early Iron Age in Thessaly: Some Thoughts, in Mazarakis Aimian (ed.) 2011, 627-633.
- Gimatziadis, S. 2012: Προτογενετική και Γεωμετρική Κεραμική της Βόρειας Ελλάδας: Η Ιστορία της Εργευνας, in Ε.Κεφαλίδου & Α.Τουαφάκη (eds.), *Κεραμικές Παιδες: Αφιέρωμα στον Καθηγητή Μιχάλη Τιβέριο από τους Μαθητές Του*, Θεσσαλονίκη, 2012, 231-379.
- Gros, J.-S. 2011: Analyse Quantitative du Mobilier Céramique des Fouilles de Xombourgo à Ténos et le Cas des Supports de Cuisson, in Verdán, Theurillat & Pfyffer (eds.) 2011, 111-117.
- Hägg, R. 2003: Some Reflections on the Sanctuary of Poseidon at Kalauraia in the Bronze Age, in
- Konsolaki-Yannopoulou (ed.) 2003, 333-336.
- Hallager, B.P. 2010: The Elusive Late IIC and the II-named Subminoan, *BSA Studies* 18 —*Cretan Offerings: Studies in Honour of Peter Warren*, 141-155.
- Iacovou, M. (ed.) 2012: *Cyprus and the Aegean in the Early Iron Age: The Legacy of Nicolas Coldstream*, Nicosia.
- Jarrosch-Reinholdt, V. 2009: *Die Geometrische Keramik von Kap Kolonna*, Wien.
- Jung, R. 2010: End of the Bronze Age, in Cline (ed.) 2010, chap.13, 171-184.
- Kaiser, I., L.-C.Rizzotto & S.Strack 2011: Development of a Ceramic Cultic Assemblage analyzing Pottery from Late Helladic IIC through Late Geometric Kalapodi, in Verdán, Theurillat & Pfyffer (eds.) 2011, 29-44.
- Kakavogianni, O. et al. 2009: Μυκηναϊκό Νεκροταφείο στο Βουβότρον, Νεκροταφεία, Υδάτουκτά Έργα και Εγκαταστάσεις Γεωμετρικών έτος Υστερών Κλασικών Χρόνων στα Δαμυρική, in Β.Βασιλοπούλου & Σ.Καραγαυού-Τζεβελέκη (eds.), *From Mesogeia to Argosaronikos*, Athens, 259-271.
- Karkanias, P. & A.Van de Moortel 2014: Micromorphological Analysis of Sediments at the Bronze Age Site of Mifitrou, Central Greece: Patterns of Floor Construction and Maintenance, *Journal of*

- Archaeological Science* 43, 198-213.
- Kerschner, M. 2011: Approaching Aspects of Cult Practice and Ethnicity in Early Iron Age Ephesos using Quantitative Analysis of a Protogeometric Deposit from the Artemision, in Verdán, Theurrilat & Pfyffer (eds.) 2011, 19-27.
- Kerschner, M., I.Kowalleck & M.Steskal 2008: *Archäologische Forschungen zur Siedlungsgeschichte von Ephesos in Geometrischer, Archaischer und Klassischer Zeit: Grabungsbefunde und Keramikfunde aus dem Bereich von Korossos*, Wien.
- Klein, N.L. & K.T.Glowacki 2009: From Kavousi Vronta to Dreros: Architecture and Display in Cretan Cult Buildings, in *Essays on Ritual and Cult in Crete in Honor of Geraldine C.Gesell*, Hesperia Supplements 42, chap.13, 153-167.
- Kolia, E. 2011: A Sanctuary of the Geometric Period in Ancient Helike, Achaea, *BSA* 106, 201-246.
- Kolia, E. & A.Gadolou 2011: Ναός Γεωμετρικῶν Χρόνων στα Νυκολαϊτικά Αχαιάς: Πρώτη Παρουσίαση της Ανοσκαφής, in Mazarakis Aimian (ed.) 2011, 191-209.
- Konsolaki-Yannopoulou, E. (ed.) 2003: *ΑΡΧΑΙΟΛΟΓΙΚΟΙ: Πρακτικά του Διεθνούς Συνεδρίου Ιστορίας και Αρχαιολογίας του Αργοσαρωνικού, Πύργος, 26-29 Ιουνίου 1998*, vol.A, Athens.
- Kotsonas, A. 2008: *The Archaeology of Tomb AIKI of Orthi Petra in Eleutherna: The Early Iron Age Pottery*, Heraklion.
- Kotsonas, A. 2013: Orientalizing Ceramic Styles and Wares of Early Iron Age Crete: Aspects of Production, Dissemination and Consumption, in Niemeier, Pitz & Kaiser (eds.) 2013, 233-252.
- Kourou, N. 2008a: The Evidence from the Aegean, in C.Sagona (ed.), *Beyond the Homeland: Markers in Phoenician Chronology*, Ancient Near Eastern Studies, Supplement 28, 305-364.
- Kourou, N. 2008b: The Dawn of Images and Cultural Identity: The Case of Tenos, *Tripodes* 7, 63-90.
- Kourou, N. 2009: The Aegean and the Levant in the Early Iron Age: Recent Developments, in *Interconnections in the Eastern Mediterranean—Lebanon in the Bronze and Iron Ages*, *Bulletin d'Archéologie et d'Architecture Libanaises, Hors-Série VI*, Beirut, 361-373.
- Kourou, N. 2011: From the Dark Ages to the Rise of the Polis in the Cyclades: The Case of Tenos, in Mazarakis Aimian (ed.) 2011, 399-414.
- Kourou, N. 2012: Phoenicia, Cyprus and the Aegean in the Early Iron Age: J.N. Coldstream's Contribution and the Current State of Research, in Iacovou (ed.) 2012, 33-51.
- Kramer-Hajos, M. & K.O'Neill 2008: The Bronze Age Site of Mitrou in East Lokris: Finds from the 1988-

- 1989 Surface Survey, *Hesperia* 77, 163-250.
- Langdon, S. 2008: *Art and Identity in Dark Age Greece, 1100-700 B.C.E.*, Cambridge.
- Lantzas, K. 2012: *Settlement and Social Trends in the Argolid and the Methana Peninsula, 1200-900 BC*, BAR International Series 2421, Oxford.
- Lemos, I. 2012: A Northern Aegean Amphora from Xeropolis, Lefkandi, in Π.Αδάμ-Βελένη & Κ.Τζαυδάκη, *Διημεροσά: Τημητικός Τόμος για την Κατερίνα Ρομποπούλου*, Θεσσαλονίκη, 177-182.
- Lemos, I. with D.Mitchell 2011, Elite Burials in Early Iron Age Aegean: Some Preliminary Observations Considering the Spatial Organization of the Toumba Cemetery at Lefkandi, in Mazarakis Ainiian (ed.) 2011, 635-644.
- Lis, B. 2009: The Sequence of Late Bronze / Early Iron Age Pottery from Central Greek Settlements — A Fresh Look at Old and New Evidence, in Deger-Jalkotzy & Bächle (eds.) 2009, 203-233.
- Luce, J.-M. 2011: L'Aire du Pilier des Rhodiens à Delphes. Essai de Quantification du Mobilier, in Verdant, Theurillat & Pfyffer (eds.) 2011, 67-75.
- Malakasioti, Z. & Ph.Tsiouka 2011: Ζητήματα Ταφικών Πρακτικών στα Νεκροταφεία της Εποχής του Σιδήρου στην Περιοχή της Αρχαίας Άλφου, Θέση «Βουλοκαλύβω», in Mazarakis Ainiian (ed.) 2011, 609-625.

- Mariaud, O. 2011: The Geometric Graves of Colophon and the Burial Customs of Early Iron Age Ionia, in Mazarakis Ainiian (ed.) 2011, 785-799.
- Mazarakis Ainiian, A. 2005: Inside the Adyton of a Greek Temple: Excavations on Kythnos (Cyclades), in M. Veroulanou & M. Stamatopoulou (eds.), *Architecture and Archaeology in the Cyclades: Papers in Honour of J.-J. Coulton*, BAR International Series 1455, Oxford, 87-103.
- Mazarakis Ainiian, A. 2009: Réflexions Préliminaires sur les Systèmes Votifs aux Sanctuaires de Kythnos, in C.Prêtre (ed.), *Le Donateur, l'Offrande et la Déesse: Systèmes Votifs dans les Sanctuaires de Déeses du Monde Grec*, Kernos Supplément 23, 287-318.
- Mazarakis Ainiian, A. 2010: Ein Antikes Heiligtum auf Kythnos, in H.Frielinghaus & J.Stroszeck (eds.), *Neue Forschungen zu Griechischen Städten und Heiligtümern: Festschrift für Burkhardt Wesenberg zum 65. Geburtstag*, Wiesbaden, 21-53.
- Mazarakis Ainiian, A. 2011: A Necropolis of the Geometric Period at Marathon. The Context, in Mazarakis Ainiian (ed.) 2011, 703-716.
- Mazarakis Ainiian, A. 2012: Euboean Mobility towards the North: New Evidence from the Sporades, in Iacovou (ed.) 2012, 53-75.
- Mazarakis Ainiian, A. 2013: Archaic Sanctuaries of

- the Cyclades: Research of the Last Decade, in Z.Archibald (ed.), *Archaeological Reports for 2012-2013*, 96-102.
- Mazarakis Ainian, A. (ed.) 2011: *The “Dark Ages” Revisited: Acts of an International Symposium in Memory of William D.E. Coulson, University of Thessaly, Volos, 14-17 June 2007*, I & II, Volos.
- Mazarakis Ainian, A. & A.Alexandriou, The “Sacred House” of the Academy Revisited, in Mazarakis Ainian (ed.) 2011, 165-189.
- Mazarakis Ainian, A. & A.Livieratou 2010: The Academy of Plato in the Early Iron Age, in H.Lohmann & T.Mattern (eds.), *Attika: Archäologie einer „zentralen“ Kulturlandschaft— Akten der Internationalen Tagung vom 18.-20. Mai 2007 in Marburg*, Wiesbaden, 87-100.
- Mazarakis Ainian, A. & C.Mitsopoulou 2007: Από την Επιφανειακή Ερευνα στην Ανασκαφή: Το Ιερό της Αρχάδας Κούφου, in E.Konsolaki-Yannopoulou (ed.), *ΕΙΛΙΑΘΛΩΝ: Αρχαιολογικό Συνέδριο προς Τιμήν του Δεσπίνος Κ.Κύρου, Πόρος, 7-9 Ιουνίου 2002*, vol.A, Athens, 307-384.
- McLoughlin, B. 2011: The Pitnos Makers at Zagora: Ceramic Technology and Function in an Agricultural Settlement Context, in Mazarakis Ainian (ed.) 2011, 913-928.
- Mitchell, D.A. & I.S.Lemos 2011: A New Approach in Ceramic Statistical Analyses: Pit 13 on Xeropolis at Lefkandi, in Verdán, Theurillat & Pfyffer (eds.) 2011, 77-88.
- Mitsopoulou, C. 2010: Το Ιερό της Δήμητρας στην Κούφο και η Μισθού του Ελευσινιακού Τεγέυου, in I.Leventi & C.Mitsopoulou (eds.), *Sanctuaries and Cults of Demeter in the Ancient Greek World: Proceedings of a Scientific Symposium, University of Thessaly, Department of History, Archaeology and Social Anthropology, Volos, 4-5 June 2005*, Volos, 2010, 43-90.
- Mook, M.S. 2011: The Settlement on the Kastro at Kavousi in the Late Geometric Period, in Mazarakis Ainian (ed.) 2011, 477-488.
- Morgan, C. 2011a: Isthmia and Beyond. How can Quantification help the Analysis of EIA Sanctuary Deposits?, in Verdán, Theurillat & Pfyffer (eds.) 2011, 11-18.
- Morgan, C. 2011b: The Elite of Aetos: Religion and Power in Early Iron Age Ithaka, in Mazarakis Ainian (ed.) 2011, 113-125.
- Niemeier, W.-D., O.Pilz & I.Kaiser (eds.) 2013: *Kreta in der Geometrischen und Archaischen Zeit: Akten des Internationalen Kolloquiums am Deutschen Archäologischen Institut, Abteilung Athen, 27.-29. Januar 2006*, Athenaiia 2, München.
- Papadopoulos, J.K. 2006: Mounds of Memory: Burial

- Tumuli in the Illyrian Landscape, in L.Bejko & R.Hodges (eds.), *New Directions in Albanian Archaeology: Studies presented to Muzafër Korkuti*, Tirana, 75-84.
- Papadopoulos, J.K. 2010a: The Bronze Headbands of Prehistoric Lofkënd and their Aegean and Balkan Connections, *Opuscula* 3, 33-54.
- Papadopoulos, J.K. 2010b: A New Type of Early Iron Age Fibula from Albania and Northwest Greece, *Hesperia* 79, 233-252.
- Papadopoulos, J.K. 2013: Some Further Thoughts on the Early Iron Age Potter's Kiln at Torone, in P.Adam-Veleni, E.Kefalidou & D.Tsiafaki (eds.), *Pottery Workshops in Northeastern Aegean (8th – early 5th c.BC)*, *Scientific Meeting AMTh 2010*, Thessaloniki, 39-50.
- Papadopoulos, J.K., L.Bejko & S.P.Morris 2007: Excavations at the Prehistoric Burial Tumulus of Lofkënd in Albania: A Preliminary Report for the 2004-2005 Seasons, *AJA* 111, 105-147.
- Papadopoulos, J.K., L.Bejko & S.P.Morris 2008: Reconstructing the Prehistoric Burial Tumulus of Lofkënd in Albania, *Antiquity* 82, 686-701.
- Papadopoulos, J.K., B.N.Damata & J.M.Marston 2011: Once More with Feeling: Jeremy Rutter's Plea for the Abandonment of the Term Submycenaean Revisited, in Gauß, Lindblom, Smith & Wright (eds.)

2011, 187-202.

- Papaphlorator, E.S. 2010: Γεωμετρική Ταφή στο Ουκόνεδο Κοτζιά στο Κοζοπύ, in A. Stéfaniis (ed.), *Πρακτικά ΙΓ' Επιστημονικής Συνάντησης ΝΑ Αττικής*, Καλύβια Θορικού, 119-129.
- Papapostolou, I.A. 2011: The New Excavations under the Early Archaic Temple of Thermos: Megaron A, Megaron B and the Ash-Altar, in Mazarakis Ainian (ed.) 2011, 127-145.
- Papapostolou, I.A. 2012: *Early Thermos: New Excavations 1992-2003*, Athens (新北米吧) .
- Pappi, E. & S.Triantaphyllou 2011: Mortuary Practices and the Human Remains: A Preliminary Study of the Geometric Graves in Argos, Argolid, in Mazarakis Ainian (ed.) 2011, 717-732.
- Penttinen, A. & B.Wells 2009: Report on the Excavations in the Years 2007 and 2008 Southeast of the Temple of Poseidon at Kalauraia, *Opuscula* 2, 89-134.
- Petrou, A., et al. 2009: Μυκηναϊκοί Τάφοι και Κοινωτικά Νεκροταφεία Γεωμετρικών, Αρχαϊκών και Κλασικών Χρόνων στη Μεγένητα, in Β.Βουλουδούλου & Σ.Καροαγοπού-Τζεβελέκη (eds.), *From Mesogeia to Argosaronikos*, Athens, 127-142.
- Pfyffer, A.K. & S.Verdan 2011: Vaiselle Domestique, Vaiselle de Sanctuaire? Deux Exemples Étrétiens, in Mazarakis Ainian (ed.) 2011, 891-903.

- Prent, M. 2009: The Survival of the Goddess with Upraised Arms: Early Iron Age Representations and Contexts, in *Essays on Ritual and Cult in Crete in Honor of Geraldine C. Gesell*, Hesperia Supplements 42, chap.19, 231-238.
- Psalti, A. 2011: Νέος Ευροντοτικός Κρατήρας από τη Γεωμετρική Επέροια: Ο Κρατήρας των Μελαρινών *Τριπύλων*, in Mazarakis Ainiian (ed.) 2011, 873-890.
- Reber, K. 2011: Céramique Eubéenne à Naxos au Début de l'Âge du Fer, in Mazarakis Ainiian (ed.) 2011, 929-942.
- Rethemiotakis, G. & M.Egglezou 2010: *To Γεωμετρικό Νεκροταφείο της Ελπίνας*, Herakleio.
- Ruppenstein, F. 2003: Late Helladic IIIC Late versus Submycenaean: A Methodological Problem, in Deger-Jalkotzy & Zavadii (eds.) 2003, 183-192.
- Ruppenstein, F. 2009: The Transitional Phase from Submycenaean to Protogeometric: Definition and Comparative Chronology, in Deger-Jalkotzy & Bächle (eds.) 2009, 327-343.
- Santaniello, E. 2011a: Gortyn in the Dark Age: A New Interpretation of the Evidence from the Haghios Ioannis Hill, in Mazarakis Ainiian (ed.) 2011, 503-513.
- Santaniello, E. 2011b: Defining a Typology of Pottery from Gortyn. The Material from a Pottery Workshop Pit, in Verdán, Theurillat & Pfyffer (eds.) 2011, 119-127.
- Skilardi, D. 2011: Αποτοκοκρατικές Ταφές από το Γεωμετρικό Νεκροταφείο της Κηφισιάς, in Mazarakis Ainiian (ed.) 2011, 675-702.
- Stamploudis, N.Ch. 2011: LUX CRETENSIS: A Cretan Contribution to the Revision of the so-called Dark Ages, in Mazarakis Ainiian (ed.) 2011, 759-768.
- Stissi, V. 2011: Finding the Early Iron Age in Field Survey. Two Case Studies from Boeotia and Magnesia, in Verdán, Theurillat & Pfyffer (eds.) 2011, 149-162.
- Strack, S. 2011: 'Erfahrungsbericht' of Application of Different Quantitative Methods at Kalapodi, in Verdán, Theurillat & Pfyffer (eds.) 2011, 45-60.
- Tsatsaki, N. 2013: From a Geometric Potter's Quarter at Eleutherna: Analysis of Finds from House Γ' at the Location of Nissi, in Niemeier, Pilz & Kaiser (eds.) 2013, 263-286.
- Tsokas, G.N. et al. 2012: Geophysical Survey as an Aid to Excavation at Mitrou: A Preliminary Report, *Hesperia* 81, 383-432.
- Van de Moortel, A. 2007: The Site of Mitrou and East Lokris in "Homeric Times", in S.P.Morris & R.Lafineur (eds.), *EPOS: Reconsidering Greek Epic and Aegean Bronze Age Archaeology—Proceedings of the 11th International Aegean Conference, Los Angeles, UCLA—The J.Paul Getty Villa, 20-23,*

- April 2006, AEGAEUM 28, Liege & Austin, 243-254.
- Van de Moortel, A. 2009: The Late Helladic IIIc—Protogeometric Transition at Mitrou, East Lokris, in Deger-Jalkotzy & Bächle (eds.) 2009, 359-372.
- Van de Moortel, A. & E.Zahou 2005: 2004 Excavations at Mitrou, East Lokris, *Aegean Archaeology* 7, 2003-2004, 39-48.
- Van de Moortel, A. & E.Zahou 2011: The Bronze Age—Iron Age Transition at Mitrou in East Lokris: Evidence for Continuity and Discontinuity, in Mazarakis Ainiian (ed.) 2011, 331-347.
- Van de Moortel, A. & E.Zahou 2012: Five Years of Archaeological Excavation at the Bronze Age and Early Iron Age Site of Mitrou, East Lokris (2004-2008). Preliminary Results, in *Αρχαιολογικό Έργο Θεσσαλίας και Ήπειρού Ελλάδας* 3, vol.II, Volos, 1131-1146.
- Vasileiou, E. 2011: Η Μερδραση από τη Χαλκοκρατία στην Εποχή του Σιδήρου στην Ήπειρο: Τα Δεδομένα από τον Ουρκοτόπο της Κρύας στο Λεκανοπέδιο των Ιωαννίνων, in Mazarakis Ainiian (ed.) 2011, 267-277.
- Verdan, S., T.Theurillat & A.K.Pfyffer (eds.) 2011: *Early Iron Age Pottery: A Quantitative Approach—Proceedings of the International Round Table organized by the Swiss School of Archaeology in Greece (Athens, November 28-30, 2008)*, BAR International Series 2254, Oxford.

- Vlachou, V. 2011: A Group of Geometric Vases from Marathon: Attic Style and Local Originality, in Mazarakis Ainiian (ed.) 2011, 809-829.
- Wallace, S. 2010a: The Roots of Cretan Polis—Surface Evidence for the History of Large Settlements in Central Crete, *AA* 2010/1, 13-89.
- Wallace, S. 2010b: *Ancient Crete: From Successful Collapse to Democracy's Alternatives, Twelfth to Fifth Centuries BC*, Cambridge.
- Wallace, S. 2011: Surface Ceramic Data on the Origins of Cretan *poleis*: Five Central Cretan Cases, in *Παραμύθια του Γ' Διεθνούς Κρητολογικού Συνεδρίου, Χανιά, 1-8 Οκτωβρίου 2006*, vol.A5, Khania, 171-211.
- Wallace, S. with D.Mylona 2012: Surviving Crisis: Insights from New Excavation at Karphi 2008, *BSA* 107, 1-85.
- Wells, B. 2003: The Sanctuary of Poseidon at Kalauraia—The New Investigations of 1997, in Konsolaki-Yannopoulou (ed.) 2003, 337-347.
- Wells, B. 2009: A Smiting-God-Figurine Found in the Sanctuary of Poseidon at Kalauraia, *Opuscula* 2, 143-149.
- Wells, B. 2011: Kalauraia in the Early Iron Age: Evidence of Early Cult, in Mazarakis Ainiian (ed.) 2011, 211-220.
- Wells, B., A.Penttinen & J.Hjohlman 2006-2007: The Kalauraia Excavation Project: The 2004 and 2005

Seasons, *Opuscula Atheniensia* 31-32, 31-129.

Wells, B., A.Penttinen, J.Hjohlman & E.Savini 2005:
The Kalauveia Excavation Project: The 2003 Season,
Opuscula Atheniensia 30, 127-215.

Zaphiropoulou, Ph. 2011: Νέα Έστραχία από τη
Γεωμετρική Νάζο. Το Νεκροταφείο στη Θέση ΠΑΙΘΟΣ
της Χόρως, in Mazarakis Aiminian (ed.) 2011, 733-743.

Zerbaki, Ph. 2011: Νεκροταφείο της ΥΕΙΙΙΓ'-
Υπομνηματικής Περιοδου στην Αγία Αγάθη της
Ρόδου, in Mazarakis Aiminian (ed.) 2011, 769-784.

(本学兼任講師)